

榎野川にて確認した
ツヤハダゴマダラカミキリ

後 藤 益 滋

「山口県 of 自然」第84号（2024年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

後藤 益滋¹⁾

ツヤハダゴマダカラカミキリ *Anoplophora glabripennis* (Motschulsky, 1853) は、中国大陸から朝鮮半島にかけて分布するフトカミキリ亜科のカミキリムシであり、近年、日本各地において確認されている外来カミキリムシの一種である（森林総合研究所（2023）, 国立環境研究所（2023））。日本国内には、2002年に横浜での確認例を皮切りにそれ以降各地で確認さるようになった（林野庁（2022）, 愛知県（2022）, 千葉県（2022）, 茨城県（2023）, 埼玉県（2023）, 神戸市（2023）, 福島県（2023）, 栃木県（2023）, 山口県（2023））。

本種は、全国的に分布を拡大していることや街路樹などへの被害が各地で相次いでいることを踏まえて（秋田ら（2021）、柳ら（2021）、長谷川ら（2022）、読売新聞オンライン（2022））、2023年9月1日付で環境省の特定外来生物種に指定された（環境省（2023））。また、世界的にみると、国際保護連合（IUCN）の世界の侵略的外来種ワースト100に指定されており、本種の侵入が確認される国々でも被害が確認されている（（IUCN）（2023））。

食害を受けた木は、高いところを集中的に食害され、そこから枯れるといった特徴を持っている（森林総合研究所（2023））。

外観的には、在来のゴマダラカミキリ
Anoplophora malasiaca (Thomson, 1865) と比較



して、胸部背面の白斑や上翅基部の顆粒ががツヤハダゴマダラカミキリでは無いなど、両種の識別は比較的容易である。

確認地点と確認状況

本種や幼虫の食害痕が確認されたのは、図1に示す山口市古熊の古熊神社の参道に掛る天神橋付近



図2 確認地点の状況(左：天神橋より下流、右：豊年橋付近)

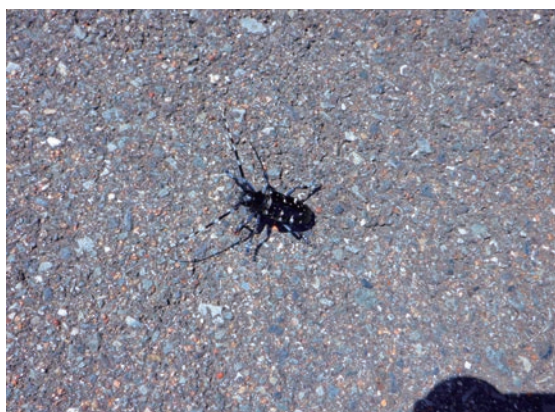


図3 確認状況(左：天神橋、右：古熊下橋)



図4 豊年橋付近の食害痕

及び約1 km下流の古熊下橋、仁保川との合流点下流に位置する豊年橋付近である（図2）。古熊付近の榎野川の川幅は、約43m（水面幅は5 m）である。堤外地は、樹高5 m程度のヤナギ類、ニレが点在している。また、豊年橋付近は、水面幅で70m程度となり、堤外と堤内の境界付近にはアキニレの高木が点在している。図-3に示す確認個体のうちで天神橋の個体は踏みつぶされた死骸であった（性別不明）。古熊下橋の個体は、橋の直下にあるエノキから飛翔してきた個体であった（性別はメス、捕獲後に捕殺）。図2（右）、4に示す豊年橋付近では、幼虫の食べかす（フラス）、脱出痕が確認されたため、フラスを20g程度採取してDNA抽出したものを本種のみを増幅するプライマーを用いて環境DNA分析を行った結果、本種の食害痕と断定された。確認時の状況を整理したものを表1に示す。

表1 確認時の状況

No	年月日（時間）	確認時の状況	備考
1	2023年7月10日（9：00頃）	飛翔中	ヤナギの木を徘徊
2	2023年7月15日（10：00頃）	死亡	－
3	2023年7月23日（10：00頃）	橋の欄干に張り付き	ニレから飛翔
4	2023年10月26日	食害痕（フラス）及び脱出痕	環境DNAによる解析

考 察

本種は、6月及び7月の午前中に確認されるケースが多く、8月以降は確認ができなかったことから、その最盛期は梅雨明け前後の晴天が連続する1～2週間程度とごく狭い期間に集中しているものと推察される。また、盛んに飛び回っている個体を観察すると、数日のうちで数百mから数キロ程度は飛翔できるものと考えられ、分布拡大のスピードは速いものと推察される。山口市内は、特に移動経路となりうる河川沿いや公園などには被害木となるアキニレやカエデ、ヤナギ類などが多く植栽または繁茂しており、土地の高低差も大きくなく、移動の障壁となりうるものが小さいことを踏まえると、個体の移動は比較的しやすいものと推察される。これは推測ではあるが、榎野川流域のほぼ全域に分布はすでに拡大しているものと考えられ、今回の確認事例もほんの一部に過ぎないものと想定される。

参考文献

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所（2023）広葉樹を食害する外来種ツヤハダゴマダラカミキリ情報。

国立研究開発法人 国立環境研究所（2023）侵入生物データベース。ツヤハダゴマダラカミキリ：
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html>.

林野庁（2022）ツヤハダゴマダラカミキリによる被害や防除方法等に関する調査事業実施報告書。

愛知県（2022）ツヤハダゴマダラカミキリにご注意ください！：
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/tsuyahada202206.html>.

千葉県（2022）千葉県内におけるツヤハダゴマダラカミキリの初確認について。千葉県環境生活部自然保護課。

茨城県（2023）特定外来生物ツヤハダゴマダラカミキリについて：
<https://www.pref.ibaraki>

jp/seikatsukankyo/shizen/tayousei/alien_species/anoplophora_glabripennis/anoplophora_glabripennis.html.

埼玉県 (2023) 注意すべき病害虫等について.ツヤハダゴマダカミキリに御注意ください: <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/juuyoubyougaichuu.html>.

神戸市 (2023) 特定外来生物「ツヤハダゴマダラカミキリ」: <https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/biodiversity/tsuyahada.html>.

福島県 (2023) クビアカツヤカミキリ等について. クビアカツヤカミキリ等外来カミキリムシに関する情報: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kubiakatuyakamikiri.Html>.

栃木県 (2023) ツヤハダゴマダラカミキリにご注意ください, ツヤハダゴマダラカミキリについて: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/seibututayousei/tuyahadagomadarakamikiri.html>.

山口県 (2023) 特定外来生物 ツヤハダゴマダラカミキリについて: <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/41/226860.html>.

下野誠之・永野篤弘・平山洋人, (2022) 山口県のツヤハダゴマダラカミキリの記録. 月刊むしNo613: pp 56-57, むし社.

川元裕・宗野俊平・杉本博之・辻本典顯 (2023) 山口県におけるツヤハダゴマダラカミキリの分布調査について. 山口的むしNo22: pp 101-109, 山口的むしの会会報.

読売新聞オンライン (2022)「世界の侵略的外来種」カミキリ猛威、樹木が穴だらけに…昨年から全国に被害拡大: <https://www.yomiuri.co.jp/science/20220530-OYT1T50241/>.

秋田勝己・加藤 尊・柳 丈陽・久保田耕平 (2021) 兵庫県で発見された外来種ツヤハダゴマダラカミキリ、月刊むしNo601: pp41-45, むし社.

IUCN(2023)100 of the World's Worst Invasive Alien Species: GLOBAL INVASIVE SPECIES DATABASE (GISD).

柳 丈陽・永幡嘉之・由野歆子・秋田勝己 (2021) 宮城県におけるツヤハダゴマダラカミキリの発生・定着と新食樹カツラとソメイヨシノの報告、月刊むしNo609: pp23-27, むし社.

長谷川道明・戸田尚希・萩野典子 (2022) 愛知県におけるツヤハダゴマダラカミキリの発見と侵入状況、豊橋市自然史博物館研報、No.32: pp35-40、豊橋自然史博物館.

環境省 (2023) 報道発表資料.カミキリムシ科2種を特定外来生物に指定する政令の閣議決定について: https://www.env.go.jp/press/press_01935.html.